

平成 23 年 4 月 6 日 (水)
 (12:00 現在)
 日本赤十字社 事業局
 救護・福祉部 救護課

東日本大震災に対する日本赤十字社の対応について (33)

日本赤十字社では、現在、被災地に救護班を派遣するなど、総力をあげて救護活動に取り組んでおります。東日本大震災における日本赤十字社の対応は以下のとおりです。

* 第 29 報から災害名を「東日本大震災」としています。

1. 救護班の派遣状況 (4 月 6 日 00:00 現在)

日本赤十字社は、3 月 11 日の発災当日から、全国の救護班及び災害時の救護活動の拠点となる移動仮設診療所 (dERU) チームを被災地各県に派遣しました。医療救護班は、岩手県、宮城県、福島県等で活動を展開しています。

現在までに活動を行った医療救護班は、4 月 6 日現在で総数 **579** 個班となっています (活動準備中の救護班を含む)。また、岩手・宮城・福島 3 県の取扱患者数は、4 月 6 日現在で 28,035 人 (発災直後の一部のデータは現在調整中であり含まれていません) となっております。

救護班の派遣状況一覧

派遣先	救護班 (dERU 等含む)			
	活動中	活動準備中	活動終了	現在までの活動班総数
北海道内			5	5
岩手県内	<u>8</u>	<u>43</u>	<u>117</u>	<u>168</u>
宮城県内	<u>11</u>	<u>91</u>	<u>192</u>	<u>294</u>
山形県内			2	2
福島県内	<u>4</u>	28	<u>59</u>	<u>91</u>
茨城県内			12	12
栃木県内			2	2
千葉県内			2	2
長野県内		<u>1</u>	2	<u>3</u>
合計	<u>23</u>	<u>163</u>	<u>393</u>	<u>579</u>

2. 救護班の派遣場所（4月6日 00:00 現在）

派遣先	救護班
岩手県内	県立山田高等学校 山田町陸中海岸青少年の家 旧釜石市立第一中学校 陸前高田第一中学校 鈴子広場救護所
宮城県内	石巻赤十字病院 石巻専修大学 蛇田中学校 東松島市鳴瀬庁舎
福島県内	河東総合体育館 あづま総合運動公園

※上記のほか巡回診療を行っています。

派遣先	d E R U
岩手県内	鈴子広場救護所 山田町立大沢小学校
宮城県内	石巻専修大学

○宮城県では、これまで 294 個班（現在 11 個班が活動中）医療救護班が仙台市、石巻市、東松島市で活動を行っています。特に甚大な被害となった宮城県石巻市では、市内で唯一医療機能が維持されている石巻赤十字病院に被災者が集中し、「命を支える拠点」として救護活動を続けています。

3月28日には、同病院内に日本赤十字社宮城県支部現地災害対策本部を設置し、宮城県災害対策本部から石巻地域の拠点として、地域の災害医療の調整を行うこととなりました。支部現地災害対策本部には、行政との連携をより円滑にするため、宮城県、石巻市職員も参加しています。

○岩手県では、これまで 168 個班（現在 8 個班が活動中）医療救護班が陸前高田市、山田町、釜石市で活動を行っています。一部の救護所では、体調を崩された被災者の診療対応を 24 時間体制で行っております。沿岸地区の避難所を含め、他の団体とも協力関係を保ちつつ、医療活動を続けています。

○福島県では、これまで 91 個班（現在 4 個班）医療救護班が福島市と会津若松市の避難所で活動を行っています。また、福島県支部災害対策本部に日本赤十字社長崎原爆病院、広島赤十字・原爆病院から派遣された緊急被爆医療アドバイザーが常駐し、被爆の安全対策に関する情報やアドバイスを受けられる体制を整備しています。また、医療救護班の拠点を中心に避難所等への巡回診療を実施しています。

○4月2日現在、福島県のあづま総合運動公園には、浜通り地区から約 1,100 人（収容は 1,400 人）の方々が避難生活をされています。福島第一発電所の半径 20 km から 30 km 圏内の屋内退避指示が出された 3月15日から、日本赤十字社山形県支部の救護班は、同避難所を拠点に被災者の医療救護活動を開始しました。山形県内には赤十字病院がないため、県立・公立等の 9 医療機関と血液センターのスタッフからなる医療救護班が派遣され、現在も献身的な活動を行っています。

<救護班>

救護班の 1 個班は、通常医師 1 人・看護師 3 人・運転手 1 人・事務管理要員 1 人、計 6 人からなり、被災地に到着次第、情報を収集し、被災者の救護活動にあたります。

< d E R Uの機能 >

d E R Uは大規模災害が発生した時に迅速に被災地域に進出し、救護班の 2 個班体制で緊急仮設診療所を開設することによって、傷病者の緊急治療を行うとともに、被災した地域の医療機能が復旧するまでの間、地域医療機関の支援を行います。

また、装備されている各種の通信機器を活用して支部災害対策本部や同現地対策本部などとの情報受発信基地としての役割も果たしています。

3. 活動フォト



岩手県山田町の救護所受付 (3月28日)



石巻市街の被災状況調査(3月27日)



石巻赤十字病院に到着した救護班(3月27日)



避難所の子どもの交流(3月28日)



陸前高田市立第一中学校での救護所診療(3月20日)

4. こころのケアの活動状況（4月6日 12:00 現在）

被災者の精神的ストレスの緩和を図るために、被災地に派遣される救護班には、こころのケア要員を帯同するように努めています。また、石巻赤十字病院においては、こころのケアセンターを設置し、こころのケア班を編成して被災者のご家族への支援など、きめ細かいこころのケア活動を行っています。

○こころのケア班を編成した活動状況

派遣先	活動中	活動準備中	活動終了	現在までの延べ活動班数
宮城県内	1	1	5	6

<こころのケア班>

こころのケア班は、赤十字のこころのケア要員（看護師等）4～5人・事務管理要員2人、計6～7人からなり、被災地の避難所等で活動にあたります。

<こころのケア>

災害によるストレスを受けたすべての被災者に対して、精神的なダメージ、心身の疲労、避難生活などから生じると考えられるストレス状態の軽減を図るとともに、救護員自身が自らのストレスに対応できるよう支援します。

●活動のひとこま●

被災地の小学生へ、応援メッセージが届けられる（3月28日）

震災後に卒業したばかりの6年生へ、岩手県山田町の大沢小学校で診療所を展開している日赤和歌山医療センターの看護師たちより、和歌山市立東山東小学校からの応援メッセージが渡されました。

また、大沢小学校の子どもたちから、12通のお礼のメッセージが和歌山県の救護班第5班を通じて和歌山の子どもたちへ送られました。



5. 救援物資

毛布を宮城県内へ 82,510 枚、岩手県内 1,000 枚、福島県内 16,020 枚、栃木県内 15,000 枚、山形県内 9,000 枚、茨城県内 3,000 枚、合計 126,530枚。

また、緊急セットは、宮城県内へ 14,676 個、岩手県内 10,962 個、山形県内 504 個、合計 26,142 個。

安眠セットは、宮城県内へ 6,000 セット、岩手県内 5,000 セット、合計 11,000 セットを搬送し、避難所の必要物資を支援しています。

この他にも岩手県では、避難所で使用するパーテーションを 347 枚配布しています。また、各企業から食品、医療資機材の提供や生活用品の寄付提供の申し入れがあり、被災地の医療機関等に向けて支援物品の輸送を行っています。

(1) 毛布 (6日 12:00 現在)

輸送先県別	毛布 (枚)
宮城県内	82,510
岩手県内	<u>1,000</u>
福島県内	16,020
茨城県内	3,000
栃木県内	15,000
山形県内	9,000
合計	<u>126,530</u>



(2) 緊急セット (6日 12:00 現在)

輸送先県別	緊急セット
宮城県内	14,676
岩手県内	10,962
山形県内	504
合計	26,142



※緊急セットは、携帯ラジオ、懐中電灯、三角巾、ブックレットなどのセットです。

(3) 安眠セット (6日 12:00 現在)

輸送先県別	安眠セット
宮城県内	6,000
岩手県内	5,000
合計	11,000



※安眠セットは、キャンピングマット、枕、アイマスク、耳栓、スリッパ、靴下などのセットです。

●活動のひとこま●

被災者へ送られる救援物資



東京の救護倉庫から搬出される支援物品

緊急セットを配布する赤十字職員

※救援物資は、財団法人JKAなどの助成により整備しています。

6. 国際赤十字の活動

(1) 安否調査

日本赤十字社と赤十字国際委員会(ICRC)は、ご家族やご友人の安否を心配されている方々のために、無料の安否確認サイト「Family Links(ファミリー・リンク)」を公開しています。

URL: www.icrc.org/familylinks

同サイトでは「誰かを探したい場合」と「自分(被災された方)が無事であることを伝えたい場合」の登録ができます。また、被災地の事情に鑑み、英語、日本語のほかにも、韓国語、中国語、ポルトガル語が利用可能となっています。

3月24日現在、5,619件の登録があり、うち1,432件が日本人による登録となっています。

(2) その他活動

3月13日から17日まで、国際赤十字・赤新月社連盟及び7カ国の赤十字社、赤新月社(アメリカ、オーストラリア、中国、ノルウェー、韓国、トルコ、カナダ)で構成される調査団が順次来日し、日赤職員とともに、被災地でのニーズ調査を行った。また、12日から連盟の広報スタッフ2人が外国メディア対応の支援のために来日しています。

7. 赤十字ボランティアの活動 (4月4日までの動き)

4月4日現在、被災地では、炊き出し、食事の配膳、給水作業の手伝い、無線による情報収集、救援物資倉庫の管理、被災家屋の片付けなどの活動を行っています。全国では、街頭での義援金募集、救援物資の仕分け・積み込み作業、防災ボランティア派遣調整などの活動が行われています。

(1) 全国でのボランティア活動状況 (3月11日～4月4日現在)

支部	活動内容					活動人数	活動内容					備考		
	地域奉仕団	特殊・青年奉仕団	防災ボランティア等	JRC	奉仕団合計		炊き出し	救援物資関連	救護班支援	ボランティアセンター業務	義援金募金活動		その他	
1ブロック	北海道		3			3	4						○	被災地支部支援、被災地ニーズ調査
	青森県	21	1		2	24	452	○				○	○	高齢者声かけ訪問
	岩手県	調査中												
	宮城県	調査中												
	秋田県	12	4	1	2	19	1104	○	○			○	○	被災地ニーズ調査、献血
	山形県	1	2	2		5	91	○	○					
	福島県	28	3	2		33	不明	○	○	○	○			情報収集、被災地ニーズ調査
2ブロック	茨城県	10	9	2		21	168	○	○		○		○	被災地ニーズ調査、道路清掃、民家片付け、高齢者施設で傾聴
	栃木県		2	1		3	34							
	群馬県		5	1		6	93						○	アマチュア無線による情報収集、救護班派遣準備
	埼玉県	調査中												
	千葉県	36	5	2	2	45	1489	○	○		○		○	がれきの撤去
	東京都	8	1	3	2	14	558		○		○	○	○	帰宅困難者支援、救護班資機材の搬送
	神奈川県	15	13	2	4	34	702		○			○	○	支部災対支援、献血広報
	新潟県	1	6	1	1	9	152	○			○	○	○	こころのケア
	山梨県	1	1	2		4	52		○	○		○	○	支部災対支援
3ブロック	富山県	2	2			4	59		○			○	○	義援金領収書発送
	石川県	調査中												
	福井県	2	2	2	2	8	37		○			○	○	運転業務
	長野県		1			1	2			○				
	岐阜県	19	1			20	957		○			○		

	静岡県	3		2		5	33		○	○		○	避難所巡回	
	愛知県	13	2	2	1	18	642		○			○		
	三重県	4	1	1	2	8	253					○	○	義援金領収書発送
4ブロック	滋賀県	1	3			4	582		○	○		○		
	京都府		2			2	133		○	○				
	大阪府		3	1		4	37		○		○			
	兵庫県	調査中												
	奈良県	2	5	2	1	10	116		○			○	○	電話対応、義援金領収書発送
	和歌山県	2	2	1	1	6	4152		○	○		○	○	義援金領収書発送
5ブロック	鳥取県	7	4		5	16	289		○			○		
	島根県			2	1	3	7					○	宮城 VC 対応	
	岡山県	1	2	1		4	92		○			○	義援金領収書発送	
	広島県		1		10	11	不明		○			○		
	山口県					0	3			○				
	徳島県	37	1		30	68	不明					○		
	香川県		4	3	2	9	96					○		
	愛媛県	調査中												
	高知県	2			4	6	75+ α							
6ブロック	福岡県	2	2	1	12	17	70		○			○		
	佐賀県	1	4	2	1	8	94					○		
	長崎県		2	1	2	5	387					○	○	チャリティー水泳大会、義援金領収書発送
	熊本県	調査中												
	大分県		3	1	1	5	227		○			○		
	宮崎県	調査中												
	鹿児島県	1	1		1	3	146					○	○	被災地へのメッセージ作成
	沖縄県	3	3			6	14					○	○	義援金準備
合計(47支部)	235	106	41	89	465	13,327	7	23	8	6	24	21		

赤十字ボランティアとは>

赤十字ボランティアは、各都道府県に組織される「地域赤十字奉仕団」「青年赤十字奉仕団」「特殊赤十字奉仕団」の3つのグループと、個人で参加する「個人ボランティア」の他、災害時に活動する「赤十字防災ボランティア」があります。また、今回のボランティア活動では、現在1万を超える幼稚園、保育所、小学校から高等学校までの青少年赤十字（JRC）メンバーも積極的に活動しています。

●活動のひとこま1●

要請から1日で物資到着 ～赤十字飛行隊岡山支隊が岩手へ空輸～（3月19日）

東日本大震災で大津波に襲われた岩手県陸前高田市で活動する日本赤十字社岡山県支部救護班に3月19日、赤十字飛行隊岡山支隊が小型プロペラ機で医薬品などを空輸。現地からの補給依頼に1日で応えました。

緊急輸送が実現した背景には、現地にいる救護班と岡山県支部との密な連絡調整がありました。支部から空輸可能という連絡が入ると、救護班は現地のニーズを調査。陸前高田市健康推進課の協力のもと、不足物資をリストアップしました。輸送された物資は、注射器や薬などの医薬品のほか、タオルやマスクといった日用品に及びます。

24日には、衛生用品やボランティアが使用するヘルメット等を積んだ第2便も飛び立ちました。



●活動のひとこま2●

温かい食べ物、被災後初めて ～山形県支部らが仙台市で炊き出し支援～（3月18日）

日本赤十字社山形県支部や県内の奉仕団などが主体となって3月18日、鶴巻児童館（仙台市立鶴巻小学校敷地内）で、東日本大震災で被災した方たちに炊き出しを行いました。

配付対象が鶴巻小学校に避難している方だけに限定しないよう、炊き出し前には宣伝を実施。近隣からも住民が次々に訪れ、200人を超える規模になりました。

すいとん600食にごはん110キロ、ロールパン400個、お茶1,000本などが次々に配られ、なかには自宅から出られない高齢の家族のためにすいとんを鍋で持ち帰る方も。受け取った方からは、「被災してから初めて温かい食べ物が食べられました」との声が聞かれました。



(2) 赤十字防災ボランティアセンター活動状況 (3月11日～4月6日 現在)

被災地で活動するボランティアの拠点とするため、本社と被災地の支部内にボランティアセンターを設立しました。各地のボランティアセンターでは、赤十字防災ボランティアによる活動のほか、一般のボランティアを受け入れるための準備などの活動をしています。

被災地支部へ派遣された赤十字防災ボランティアは、被災地支部ボランティアセンターの運営支援や、救援物資の仕分けとともに、被災地へ出かけて一般住居や店舗等の内部に入り込んだ「泥かき」などの活動を精力的に行っています。また、本社では、3月18日から東京と被災地支部のボランティアセンターを結ぶ、赤十字防災ボランティアのシャトル便を定期的に運行しています。

支部名	設立日	活動人数	活動状況
本社ボランティアセンター 他	3月15日	9人	<ul style="list-style-type: none"> ● 被災地支部ボランティアセンター運営・支援 ● 本社と宮城県支部を結ぶシャトル便の調整・運行 ● 本社業務の支援
宮城県支部	3月14日	23人(ボランティアセンター)	<ul style="list-style-type: none"> ● 東松島市：VC支援、泥拭き作業、作業着(合羽)洗い等 ● 岩沼市：救援物資の仕分け作業 ● 気仙沼市：ボランティアセンター設立及び泥掻き出し
岩手県支部	3月11日	7人(ボランティアセンター)	<ul style="list-style-type: none"> ● 県支部サポート業務 ● 3月25日陸前高田市等6市町村へパーテーションを配付 ● 3月27日陸前高田市、大船渡市への衣類配布支援
福島県支部	3月15日	1人(ボランティアセンター)	<ul style="list-style-type: none"> ● 救護班支援、救援物資搬送等 ● ボランティアセンター活動展開中

●活動のひとこま●

赤十字防災ボランティア 被災地の支援へ！シャトル便を定期運行中！（4月6日）

日本赤十字社では、岩手県支部調整のもと、地元行政から要請のあった下着や靴下、フリース、トレーナーなどを、県支部職員や本社応援要員と協力して、赤十字防災ボランティアが陸前高田市（陸前高田市横田中学校）と大船渡市（大船渡市立根小学校）に搬入しました。岩手県では、物資は基本的に県、市町村で管理を行い、自衛隊が行政からの要請に基づいて避難所や在宅被災者へ届けています。

また、陸前高田市、大船渡市、釜石市、大槌町、山田町、宮古市にて、避難所でプライバシーを確保するためのパーテーションやマスクを、現場で物資搬送を担当している自衛隊と協働して、資材集積場所に搬入しました。そこでは地元のボランティアの中学生、高校生が物資の仕分けをしていました。

現地では、入浴や水に対するニーズが高く、また避難所や居宅避難者はマッサージ、こころのケアを必要としています。日赤は、被災地の文化や風習を尊重しながら、その地域にあった支援を今後も継続していきます。



車両から物資を運び出すメンバー



物資の荷下ろしを行う防災ボランティア

8. 献血・血液製剤の供給

4月6日現在、岩手県、宮城県、福島県では、献血者の受け入れを休止していますが、血液製剤の病院への供給については、他の地域の血液センターの協力により、支障は生じていません。

全国的に献血協力者の増加が続いており、当面は血液の在庫に余裕があるため、日本赤十字社ではホームページ等で長期的なご協力をお願いしています。

9. 義援金の受付

日本赤十字社は、被災された方々への見舞金である災害義援金の受付を行っています。

受付けた義援金は、第三者機関である義援金配分委員会（被災自治体、日本赤十字社、報道機関等で構成）に拠出され被災者に配分されます。今回の義援金については、各県の被災者に対して迅速に行き届くよう、関係機関と協議しています。

(1) 義援金受付状況

東日本大震災義援金へ多くの皆さまから温かいお気持ちをお寄せ頂きありがとうございます。現在の義援金受付状況をご報告いたします。

4月5日（火）現在：165万8,078件 1,067億8,366万8,486円

※この数字はゆうちょ銀行、三井住友銀行、三菱東京UFJ銀行、みずほ銀行の義援金口座へ入金が確認された金額及び日本赤十字社本社へ持参いただきました義援金の合計額です。

(2) 義援金の受付

金融機関： 郵便振替（郵便局）

口座番号： 00140-8-507

加入者名： 日本赤十字社 東北関東大震災義援金

取扱期間： 平成23年3月14日（月）～平成23年9月30日（金）

※郵便局窓口での取り扱いの場合、振替手数料は免除されます。

●活動のひとこま●

日本赤十字社本社へは、沢山の方々から義援金が届けられています。心より御礼申し上げます。



高橋直幹くんと和志くん



赤十字広報特使 藤原紀香さんと近衛社長